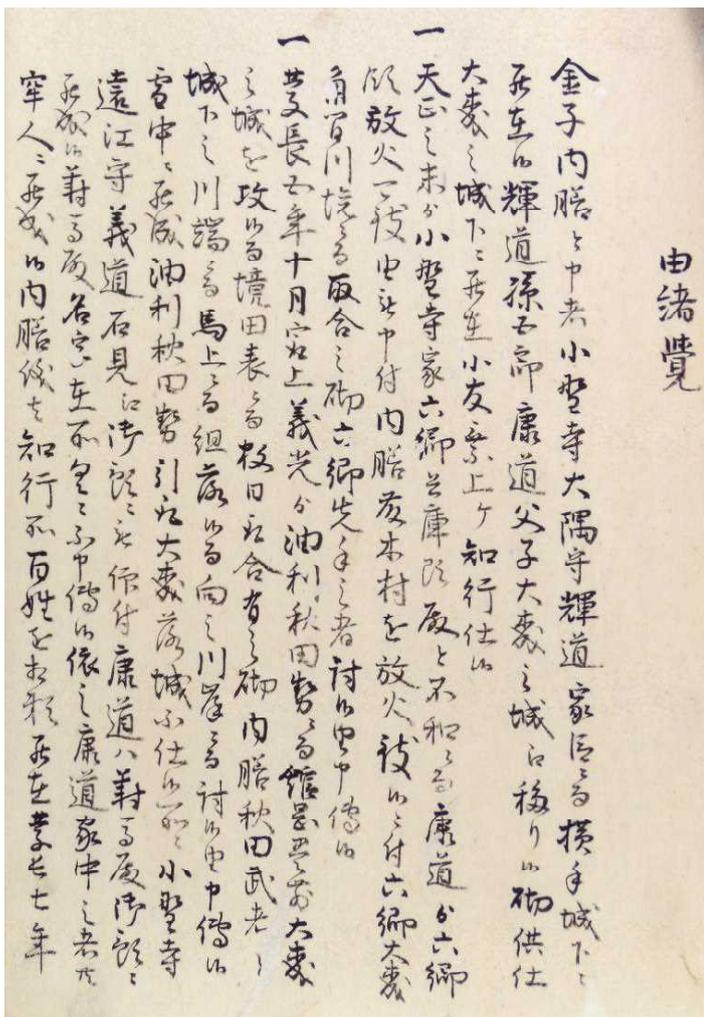


由緒覚



由緒覚

金子内膳と申者小野寺大隅守輝道家臣ニ而横手城下ニ
 罷在候輝道孫五郎康道父子大森城之城江移り候砌供仕
 大森之城下ニ罷在小友乗上ケ知行仕候
 一天正之末ヨリ小野寺家六郷兵庫頭殿と不和ニ而康道ヨリ六郷
 領放火可致由被申付内膳藤木村を放火致候ニ付六郷大森
 角間川境ニ而取合之砌六郷先手之者討候由申伝候
 一慶長五年十月最上義光ヨリ油利秋田勢ニ而館岡豊前大森
 之城を攻候而境田表ニ而数日取合有之砌内膳秋田武者之
 城下之川端ニ而馬上ニ而組落候而向之川岸ニ而討候由申伝候
 (後略)

秋田藩士のさまざまな経歴～佐竹氏国替え以前から～

秋田藩では元禄期と文化期の2度、藩士に系図・由緒書を提出させ、その系譜を明らかにさせました。これら系図類は、当館閲覧室に複製本が配架され、お客様の先祖調べに大いに利用されています。『系図目録』Ⅰ・Ⅱも刊行しており、検索の便に役立っています。公文書館では利用頻度の高い資料ですので、古文書入門にもとっつきやすいと考え、今回も教材に取り上げました。

写真の金子氏は、小野寺氏旧臣で角間川に居住した給人の家です。佐竹氏が秋田に入った後、雄勝・平鹿郡に勢力を持っていた小野寺氏の旧臣達は足軽に召し抱えられ、角間川と刈和野に集住させられました。写真の由緒覚によると、金子氏は小野寺氏の家臣だった頃には支城の大森城下に居住し、慶長5年(1600)に大森城の攻防戦で奮戦したことも記しています。

教材には、会津の芦名氏の旧臣だった石川氏の家伝書も取り上げました。芦名盛重は天正17年(1589)に摺上原の戦いで伊達政宗に大敗し、実兄の佐竹義宣のもとに逃れました。佐竹義宣が秋田へ国替になった際、芦名盛重も家臣と一緒に同行し、角館を領しました。芦名氏が断絶した後、石川氏など芦名氏旧臣は佐竹北家の組下給人になっています。また、常陸以来の佐竹氏家臣である江橋氏の由緒書も取り上げました。江橋氏の一族には、佐竹氏の国替に際し常陸に残り、後に水戸徳川家に仕えた者もいました。元禄の頃、秋田の江橋氏では、「奥羽永慶軍記」を著した戸部いつかんさい一慙斎に依頼し常陸の江橋氏の様子を調べてもらっています。

平成二十四年七月七日(土)の入門コースでは、金子氏の「由緒覚」(資料番号 A288・2-176-4)等を教材に使用しました。